

平成29年度 決算状況		人口	27年国調 22年国調 増減率	48,147人 50,156人 -4.0%	区分	住民基本台帳人口	うち日本人	47,286人 47,904人 -1.3%	産業構造	都道府県名	団体名	市町村類型	I-0
		面積	密度	207.61km ² 232人	30. 1. 1	49,742人			区分	08	2341	地方交付税種地	I-1
					29. 1. 1	50,109人			27年国調	7,949	8,534		
									22年国調	31.9	33.1		
									第1次	5,342	5,340		
									第2次	21.5	20.7		
									第3次	11,605	11,922		
										46.6	46.2		
歳入の状況 (単位:千円・%)													
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	市町村税の状況 (単位:千円・%)				指定団体等 状況	08 2341		平成29年度(千円)	平成28年度(千円)
地方	5,044,934	21.4	5,044,934	40.0	収入済額	構成比	超過課税分	旧新産× 旧工特× 旧開発× 旧産炭× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	23,569,300 21,513,181 2,056,119 223,660 1,832,459 415,232 106,465 -	22,767,117 20,643,188 2,123,929 706,702 1,417,227 297,084 627,186 -	23,569,300	22,767,117
地方譲与	280,580	1.2	280,580	2.2	普通	99.0	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	21,513,181 2,056,119 223,660 1,832,459 415,232 106,465 -	20,643,188 2,123,929 706,702 1,417,227 297,084 627,186 -	21,513,181	20,643,188
地方交付金	7,217	0.0	7,217	0.1	市	99.0	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	2,056,119 223,660 1,832,459 415,232 106,465 -	2,123,929 706,702 1,417,227 297,084 627,186 -	2,056,119	2,123,929
配当交付金	21,993	0.1	21,993	0.2	町	44.4	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	223,660 1,832,459 415,232 106,465 -	706,702 1,417,227 297,084 627,186 -	223,660	706,702
株式等譲渡所得交付金	21,971	0.1	21,971	0.2	村	1.6	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	1,832,459 415,232 106,465 -	1,417,227 297,084 627,186 -	1,832,459	1,417,227
分離課税所得交付金	-	-	-	-	内	38.9	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	415,232 106,465 -	297,084 627,186 -	415,232	297,084
道府県民税所得割臨時交付金	-	-	-	-	所	1.7	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	106,465 -	627,186 -	106,465	627,186
地方消費税交付金	731,024	3.1	731,024	5.8	法	2.2	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
ゴルフ場利用税交付金	23,208	0.1	23,208	0.2	法	43.6	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	定	43.6	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
自動車取得税交付金	76,644	0.3	76,644	0.6	資	3.2	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
軽油引取税交付金	20,149	0.1	20,149	0.2	産	7.7	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
地方交付税	6,799,741	28.8	6,375,791	50.6	車	3.2	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
内	6,375,791	27.1	6,375,791	50.6	た	7.7	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
普通交付税	366,586	1.6	-	-	ば	7.7	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
特別交付税	-	-	-	-	こ	7.7	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
震災復興特別交付税	57,364	0.2	-	-	税	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
(一)一般財源計	13,027,461	55.3	12,603,511	99.9	保	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
交通安全対策特別交付金	5,355	0.0	5,355	0.0	有	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
分担金・負担金	205,257	0.9	-	-	法	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
使料	94,633	0.4	-	-	定	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
手数料	62,439	0.3	-	-	的	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
国庫支出金	3,342,547	14.2	-	-	税	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
国有提供交付金	-	-	-	-	所	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
(特別区財源交付金)	-	-	-	-	税	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
都道府県支出金	1,636,019	6.9	-	-	等	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
財産収入	34,214	0.1	1,508	0.0	法	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
寄附	78,942	0.3	-	-	定	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
繰入金	519,841	2.2	-	-	外	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
繰越金	2,123,929	9.0	-	-	目	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
繰入債	424,163	1.8	28	0.0	的	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
地方債	2,014,500	8.5	-	-	税	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-	所	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
うち臨時財政対策債	630,700	2.7	-	-	等	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
歳入合計	23,569,300	100.0	12,610,402	100.0	法	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-
合計	5,044,934	100.0	-	-	定	-	-	低開発× 山振× 過× 首× 近× 中× 財政健全化× 指数表選定× 財源超過×	歳入総額 歳出総額 繰越すべき財源 単年度収支 繰上立金 繰上償還 積立金取崩し 実質単年度支	-	-	-	-

(注) 1. 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。
2. 東京都特別区における基準財政収入額及び基準財政需要額は、特別区財政調整交付金の算出に要した値であり、財政力指数は、前記の基準財政需要額及び基準財政収入額により算出。
3. 産業構造の比率は分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
4. 人口については、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
5. 面積については、調査年度の10月1日現在の市区町村、都道府県、全国の状況をとりまとめた「全国都道府県市区町村別面積調」(国土地理院)による。
6. 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合、「給料月額(円)」及び「一人当たり平均給料月額(円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)を用いている。)
7. 「一般職員等」、「ラスパイルズ指数」、「特別職等」については、地方公務員給与実態調査に基づくものであるが、当該資料作成時点(平成31年1月末時点)において平成30年調査結果が未公表であるため、前年度の数値を引用している。